

暮らしの中の助け合い

伊勢原市立成瀬中学校

三年

千原

玲菜

私は少し前まで福祉についてあまり知らず、

身近に感じていませんでした。前まで福祉は

高齢者や身体的に障害がある人に介護やサポ

ートをすることだと思っていました。しかし

その考えが変わる出来事がありました。

数ヶ月前私の弟が足を骨折しました。弟は

松葉杖で生活していたので、学校へ行くとき

は車で送ってもらったり、学校内で廊下を移

動するときは先生や友達に荷物を持ってもら

ったり、周りのみんなが協力して生活してい

ました。私の両親は、仕事の時間を調整した

りして一生懸命送り迎えしたり、遠足に行け

るか行けないかが微妙で悩んでいた弟にとて

も真剣に弟の身になって相談していました。

私も悩んでいる弟に、みんなが助けしてくれ

るからなんとかなるよ。せ、かくだし遠足に

行きなよ。と言いました。両親も「行、たり

大変なことやみんなと同じようにできないこと
ともあるだろうけど、ちと楽しいよ。と言
いました。しかし弟は、やっぱり危ないレ、行
く場所が森のような所だ、たうで行かないと
決断しました。それに対して両親は、そう
だね、たしかに危ないレやめておこうか。と
弟を肯定し、行けなく悲しんでいた弟をほ
ゆましていました。そのやりとりを聞いてい
た私は骨折をして大変なことほ歩いたりする
ことだけではなく、不安、悩み、悲しみなど

も味わわなければいけないことだと知りまし
た。そんな弟と一生懸命だ、た両親を今思い
出し、福祉とは困っている人によりそう、たリ
人が協力しあって共に幸せを味わうことだと
思いました。困っているというのは、身体や
心だけでなく経済的や他にも、とたくさん
の理由があるうではなにか、と思います。た
えば、何かしらの理由で働くことができな
くて生活保護をうけている人かいるとします。
その人は生活保護かなければ困ってしまいま

す。その生活保護のお金は税金から払われて
ります。だから税金を払って、私達は間接
的に困って、いる人々を支援して、いることにな
ります。あまり実感はあきません。これに
大切な福祉です。このようなことが全員の幸
せにつながると思います。

このような幸せを色々な場面でも、
と増やして、いくにはどうすればいいのかわか
る。私は世の中には色々な事情をかけた人
が、いると、いうことを知り、それを意識して生

活すること、が大切だと思いました。駅など人
が集まる所に行くと、車椅子に乗っている人、
妊婦の人、かばんにヘルプマークがついてい
る人などを見かけます。そのときにヘルプマ
ークが何か知らなかったら、その人に配慮し
た行動ができません。だから、知って、もしマ
ホを見ながら歩いていたら、その人に気
をくくることができなにかあしません。だから
常に少しは意識を向けることが大切だと思

まよ。しかし、困っている人に声をかけろの
は勇気がいります。私も初対面の人と会話を
するのは苦手だし、このように思う人も多い
かと思えます。でももし自分が困っている立
場だったら同じの人達に気づいてくれるにス
ルーされたら、とても孤独を感じると思いま
す。だから、勇気を出して手伝ってもらえ
ても大切だと思います。

私はまだ中学生だから、誰かのためにでき
ること、幸せのためにできることは限られて
います。でも支援が必要な人について知るこ
とや考えること、手助けすることなど、でき
ることにはたくさんあります。だから私はこれ
から福祉について考え、協力しあうことを
大功にしていきたいと思います。